

「北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会 第8回会合」を開催

北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会（以下「協議会」という。）は、令和8年2月26日（木）、北陸総合通信局会議室及びオンラインのハイブリッド方式により、第8回会合を開催しました。

開会にあたり、北陸総合通信局 片山寅真局長は、政府は成長戦略の策定に当たり、17の戦略分野を掲げており、そのうちの一つである情報通信分野を検討する総務省として、北陸の地に恩恵が得られるように対応して参りたいと挨拶しました。

議事では、はじめに、事務局から、令和7年12月23日に「地方創生に関する総合戦略」が閣議決定されたことに伴い、本協議会の名称を「北陸デジタルインフラ整備・活用推進協議会」に変更する開催要綱の改訂を提案し、承認されました。引き続き、事務局から、5G等のインフラ整備のマッチング案件の進捗状況に関して福井県の冠山峠トンネルの携帯電話不感対策の状況等を説明しました。

次に、ICTを活用した地域課題解決の取組紹介として、若狭町観光まちづくり課 主査 森下敏行氏から、地域BWAを活用したスマートポールによる子どもの見守りシステムについて、若狭町スマートエリア構想策定会議で議論を重ね整備し、移住・定住を促進している事例を説明。また、朝日町次世代パブリックマネジメントアドバイザーを務める（株）博報堂 畠山洋平氏から、朝日町と博報堂が官民で共創し、地域が元来もっている人の気持ち「お互い様」から生まれた公共ライドシェアサービス「ノッカル」や、「やりたい・おもしろい」といった生活者価値を生み出すマイナンバーカードを活用した公共サービスパス「LoCoPi」の事例を交えながら、「地域の文化力×テクノロジー」による持続可能なまちづくりが紹介されました。

その後、特別講演として、NTTドコモビジネス（株）イノベーションセンター IOWN推進室 エバンジェリスト 林雅之氏から、AI時代の新たなデジタルインフラ整備として期待される光関連技術を活用した次世代情報通信基盤「IOWN」の最新動向について、ユースケースや社会実装の事例、今後の展開を交えて講演いただきました。

最後に、国のICT利活用支援施策として、①北陸総合通信局から、デジタルインフラ整備推進事業、地域社会DX推進パッケージ事業、②北陸農政局から、スマート農業推進施策をそれぞれ説明しました。

本協議会は、引き続き、地方公共団体と通信事業者との間における通信基盤整備のマッチングの推進、地域のDXに資する優良事例の共有等に取り組んで参ります。

【議事】

- 開催要綱の改訂について
- 5G等のインフラ整備の地域ニーズと事業者とのマッチング案件等について
- ICTを活用した地域課題解決の取組紹介
 - 福井県若狭町
「若狭町スマートエリア開発事業～地域BWAを活用して地域の安心安全を確保～」
 - 富山県朝日町
「官民地域共創によるこれからの公共サービスの実現
～一人ひとりが住みたい場所に住み続けるために～」
- 特別講演 AI時代の新たなデジタルインフラ整備の推進
「IOWN最新動向」
- ICT利活用施策紹介
 - 総務省の支援施策
 - 農林水産省 スマート農業推進施策



会合は会場参加とオンライン参加のハイブリッドにより開催